



令和3年度学校教育指導の指針

旭市教育委員会では「ふるさと旭に誇りをもち、社会で活躍する人を育てる」をスローガンに、5つの重点項目を掲げ、児童生徒の教育や学校の支援に取り組んでいます。

1 ふるさと旭に誇りをもち、社会に視野を広める子ども推進する主な内容

- 豊かな自然環境や歴史・文化・産業などを生かしたふるさと教育
- 郷土と世界に目を向け、コミュニケーション能力を養う取り組み

教育委員会における取り組み

市内各校の交流支援、「学校自慢」の推進、市公共施設の案内および利用の促進、指導室便り「かけはし」による情報提供 など

2 社会の変化に対応できる確かな学力と生涯にわたり自ら学ぶ姿勢を身につける子ども

推進する主な内容

- 確かな学力を育む活力ある学校づくり
- 将来の生き方や働き方につながるキャリア教育

教育委員会における取り組み

学校訪問の実施、市主催研修会の充実、旭市ICT教

育推進委員会の実施、就学相談の充実 など

3 豊かな人間性や道徳心をもった思いやりのある子ども推進する主な内容

- 共生社会の実現に向けた取り組みや、体験活動と心の教育

教育委員会における取り組み

道徳教育研修会の充実、各種交流活動の推進、オリパラ教育の推進、オリンピック新聞の発行、学校いきいきプランの推進 など

4 健やかでたくましく、活力にあふれる子ども

推進する主な内容

- 食育と健康・体力づくり
- 安全教育と安心して活動できる環境づくり

教育委員会における取り組み

課外活動支援事業の充実、学校給食の工夫・改善、スクールカウンセラーの配置と活用、安全・安心な施設や設備の充実、「子ども110番の家」の協力依頼 など

5 地域と関わり成長する子ども

推進する主な内容

- 地域と共に歩む学校づくり
- 交流活動や文化・スポーツ活動および環境に関わる取り組み

教育委員会における取り組み

開放学校の支援、特色ある取り組みの推進、関係機関との連携 など

あさひ輝いた人々

第33回

人望と実力を兼ね備えた初代干潟町長

高木 融 (1905～1982年)



高木融は初代干潟町長として、混乱した時代に町の基礎を築き上げた人物です。

明治38(1905)年、萬歳村の高木家の長男として生まれ、萬歳小学校高等科を卒業後、家業である農業に携わりました。

昭和21(1946)年に萬歳農業会の専務理事に就任すると、周りも驚くほどの手腕を発揮し、戦後の復興にあたりました。村で絶大な信頼を得て、昭和22(1947)年には村議会議員に推され、昭和23(1948)年には農業協同組合の専務理事、昭和25(1950)年に組合長に就任し、地域のリーダーとして活躍するようになりました。昭和26(1951)年には萬歳村長、干潟水害予防組合の管理者

となり、古城村、中和村との合併を成し遂げ、昭和30(1955)年に誕生した干潟町の初代町長となり、以後3期12年にわたり新しい町の基盤づくりとその発展に力を尽くしました。昭和41(1966)年から翌42(1967)年まで、新しく合併した干潟町農業協同組合の初代組合長も兼任しました。合併や統合に向けての対立や混乱があっても「高木さんならば」と周囲が認めるような人格と実力を兼ね備えた人物だったと伝えられています。

町長を退いた後も、昭和44(1969)年から昭和53(1978)年まで干潟土地改良区理事長となり、国営の大利根用水事業着工を実現させたほか、昭和46(1971)年の台風25号の災害復旧に取り組みました。昭和51(1976)年には勲五等瑞宝章を授与されています。

旧干潟町役場前には胸像が、萬歳村役場の跡地には、功労をたたえる碑が建てられています。

※優れた人物がいた跡に残る香気のこと。



高木融の胸像



「残膏賸馥」(*)と書かれた頌徳碑